

# 森の川自然散歩

2019年6月号



上：うの中の小枝で休む  
シロオビアゲハのメス。

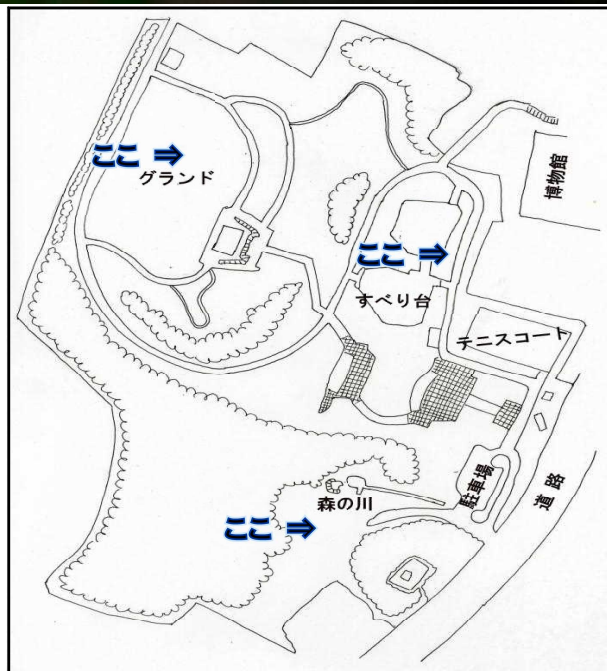
右：枯れ葉に止まるシロ  
オビアゲハのオス。



昼も夜も、森川を優雅にとびまわる

## シロオビアゲハ（メモ）▶▶▶

- 翅を広げると13センチくらいで、アゲハチョウの仲間では少し小型の種類になります。前ばねの下に大小の白い斑があり、全体ではチョウの真ん中に白い帯があるように見えます。
- 森の明るいところを、少し早めのスピードで飛びます。あまり高くは飛びません。
- 沖縄島では、普通に見られるチョウで、4月くらいから見られます。森川公園でも5月から夏にかけて、ウガンヌカタの前の広場や、遊歩道沿い、上のグラウンドの周囲などでよく見ることができます。
- 他のアゲハチョウと同じように、ミカン科の植物が食草になります。





# 森川公園で見つける不思議

緑の公園には、不思議がいっぱい見つかります。

## (28) なぜ見つからない、森川公園のイジュの木

沖縄が梅雨入りすると、新聞やテレビなどでよく紹介されるので、ご存じの方も多と思います。小雨濡れそぼつ薄いクリーム色の花は、清楚な美しさがあります。

このイジュの木は、市内ではあまりおなじみではありません。たまに見かけるものは、庭木として植えられたものか、公園などに植栽されたものです。イジュは沖縄島北部の酸性土壌で育つ木です。そのため中南部のアルカリ性土壌の場所には生えていないのです。

土の違いは、沖縄島のヤンバルと島尻地域の違いでもあります。この時期、野山にイジュの花を探して、ヤンバルと島尻の境界を発見していくのも楽しいかも。



上：梅雨の頃、野山を彩るイジュの花(うるま市にて)。

# 森川公園6月の植物だより

## 公園を代表する木かも？ ～ イスノキ ～



- 季節にあわせた花を探すのが、だんだんと困難になってきたので、今回から樹木を含めて、森川公園の植物を紹介していくことにします。
- 公園の遊歩道沿いに多く生えています。胸高直径が20～30センチくらいの木が大半ですが、イスノキの大木は1本になるものもあります。
- 土を選ばず、日向でも日陰でも育つので、屋敷林や防風林、街路樹としてよく植えられています。実は広卵形で硬く、熟すると先が二つに割れます。

左：公園に植えられたイスノキとその実。

博物館で森川公園の見取り図をもらって、  
自分が見つけた動物や植物をメモしていこう！

疑問や質問があったら、博物館の職員にいろいろ聞いてみてね。  
宜野湾市立博物館 〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1  
Tel:098-870-9317 Fax:098-870-9316

